

教科	生活支援技術 (医療的ケアを含む)	学科・学年	教養福祉科・1年	単位数	3単位
学習到達目標	人の尊厳の保持や自立支援を理解し、基礎的な介護の知識と技術を身に付けるとともに、デイサービスセンターやグループホームの利用者に適切かつ安全に支援できる能力と態度を身に付ける。				
使用教科書・副教材	「生活支援技術」(実教出版) 「新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」(中央法規) 「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規) 「実技試験のチェックポイント2016」(中央法規)				
評価の観点	【関心・意欲・態度】 基礎的な介護の知識と技術に関心を持ち、意欲的に学習している。 【思考・判断・表現】 安全・安楽、自立支援のための適切な介護技術について考え、その根拠を表現できる。 【技能】 高齢者に対して、基礎的な介護の知識と技術を実践できる。 【知識・理解】 基礎的な介護の知識と技術を身に付けている。				
評価方法	学習活動状況(出席・意欲・態度等)、レポートの提出・筆記試験・実技試験で総合的に評価する。				
授業の受け方及び学習方法	授業は教師や友達の発表を良く聞き、必要事項をノートに書き込むこと。実習では実習着をきちんと着用し、積極的に実習を行い、実習記録を提出すること。				
学 期	項 目		学習のねらい		
1 学期	生活支援とは何か	居住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生活がどのような側面から構成されているか理解する。 ・生活について、人間の発達段階と関連づけて理解する。 ・生活支援の対象者や生活支援の考え方、ICFについて理解する。 ・居住環境の整備にあたってどのような視点をもって臨んだらよいかを理解する。 ・現在の居住環境は、高齢者の生活にどのような影響を与えているかを理解する。 ・高齢者の自立を支援するための新しい住まいの形態について理解する。 ・住宅および施設的环境整備の具体的な進め方について理解する。 ・居住環境の整備における技術を身につける。 (シーツの扱い方・ベッドメイキング・シーツ交換) (体位・安楽な姿勢・立ち上がり・ボディメカニクス) 		
2 学期	家事の介護	アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・家事の支援の意義と目的について理解する。 ・家事支援における介護技術について理解する。 ・他職種の役割と連携について理解する。 ・生活支援におけるアセスメントについて理解する。 ・ICFの考え方とアセスメントの関係性について理解する。 		
	身じたくの介護		<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と衣服の管理方法の基本について理解する。 		

2 学期	<p>移動の介護</p> <p>食事の介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとって衣服の管理方法の基本について理解する。 ・身じたくにおける介護技術を習得する。 〈衣服の着脱・整髪〉 ・人間の生活のなかで、“移動”がいかに大きな意味をもっているかを理解する。 ・移動・移乗における基本的な知識と技術を身に付ける。 ・安全で安楽な移動の介助の方法を習得する。 〈歩行介助・車いすの介助・体位変換〉 〈車いすへの移乗・ベッド上での移動〉 ・食事の意義と目的を理解する。 ・食事における介護技術を身に付ける。 〈食事の介助・口腔ケア〉 ・食事における他職種の役割と協働について理解する。
3 学期	緊急時の対応の知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を理解する。 ・緊急時における連携のあり方を学ぶ。 ・応急手当とその実際について理解する。

教科	生活支援技術 (医療的ケアを含む)	学科・学年	教養福祉科・2年	単位数	3単位
学習到達目標	<p>自立生活を支援するための介護の役割を理解し、介護実習により介護等に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得するとともに、様々な介護場面において支援できる能力と態度を身に付ける。</p> <p>介護現場で必要な医療的ケアについて、医療職との連携のもと、安全・適切に実施できるよう、必要な知識や技術を習得する。</p>				
使用教科書・副教材	<p>「生活支援技術」(実教出版)</p> <p>「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規)</p> <p>「新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」(中央法規)</p> <p>「実技試験のチェックポイント2015」(中央法規)</p> <p>「介護職員等実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア」(中央法規)</p>				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】 高齢者や障害者の自立支援について関心を持つとともに、実習等を通して、総合的な知識と技術を学習し、利用者のニーズについて主体的に学習しようとする態度が身に付いている。</p> <p>【思考・判断・表現】 自立した生活についてよく考え、高齢者や障害者に応じた支援方法を適切に判断できる。 習得した知識と技術を実践し、記録や報告等で実施手順や問題点、利用者の状況等を表現できる。</p> <p>【技能】 高齢者や障害者に対して、安全・安楽な介護技術を実践できる。</p> <p>【知識・理解】 日常生活の支援技術に関する基礎的な知識を身に付け、利用者に応じた支援方法について理解している。</p>				
評価方法	学習活動状況(出席・意欲・態度等)、レポートの提出、筆記試験、実技試験で総合的に評価する。				
授業の受け方 及び学習方法	<p>利用者の個別性を理解し、一人ひとりが異なった支援が必要であるため、基礎基本をしっかりと理解する。また、利用者の心理的な側面も体験的に理解する。</p> <p>介護実習での実践の基礎となるので、積極的に取り組み、現場で通用する確実な技術と態度を身に付ける。</p>				
学 期	項 目	学習のねらい			
1 学期	自立に向けた食事の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の意義と目的を理解し、介護技術を身に付ける。 (ベッドの上での食事介助・口腔ケア) 			
	自立に向けた排泄の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排泄の意義と目的を理解し、介護技術を身に付ける。 			
	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尿器、便座の介助・ポータブルトイレ・オムツ交換 ・ 入浴・清潔保持の意義と目的を理解し、介護技術を身に付ける。 (清拭・部分浴の介助・一般浴、特殊浴の介助) 			
	医療的ケア実施の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療的ケアを実施するための基礎知識を理解する。 ・ 医療的ケアに関連する法制度や倫理等を学ぶ。 			

	<p>経管栄養 (基礎的知識・実施手順・演習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防、安全管理体制についての基礎知識・技術を習得する。 ・消化器系のしくみ、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解する。
2 学期	<p>自立に向けた家事の介護</p> <p>自立に向けた睡眠の介護</p> <p>喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順・演習)</p> <p>救急蘇生法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家事のもつ意義について理解し、家事の自立に必要な基本的知識について学ぶ。 ・家事の自立に不可欠な技術とその指導方法を理解する。 ・睡眠の意義と目的を理解し、介護技術を身に付ける。 (安眠のための介助・不眠時の介助) ・呼吸器系のしくみ、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識を理解する。 ・安全・安楽な喀痰吸引の技術を習得する。 ・救急蘇生法について、心肺蘇生法の技術を習得する。
3 学期	<p>終末期の介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期における介護の意義と目的を理解し、介護技術を身に付ける。 (終末期における介助) ・他職種の役割と協働について理解する。

教科	生活支援技術 (医療的ケアを含む)	学科・学年	教養福祉科・3年	単位数	4単位
学習到達目標	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解する。また、介護実習により介護等に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得するとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。				
使用教科書・副教材	「生活支援技術」(実教出版) 「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」(中央法規) 「新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」(中央法規) 「実技試験のチェックポイント2014」(中央法規)				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】 高齢者や障害者の自立支援について関心を持つとともに、介護実習等を通して、総合的な知識と技術を学習し、利用者のニーズについて主体的に学習しようとする態度が身に付いている。</p> <p>【思考・判断・表現】 自立した生活についてよく考え、高齢者や障害者に応じた支援方法を適切に判断できる。 習得した知識と技術を介護実習で実践できるとともに、日誌等の記録に問題点や改善点を表現することができる。</p> <p>【技能】 高齢者の状況に応じた適切な介護を実践することができる。</p> <p>【知識・理解】 日常生活の支援技術に関する基礎的な知識を身に付け、利用者に応じた支援方法について理解している。</p>				
評価方法	学習活動状況(出席・意欲・態度等)、レポートの提出・筆記試験・実技試験で総合的に評価する。				
授業の受け方 及び学習方法	利用者の個別性を理解し、一人ひとりが異なった支援が必要であるため、基礎基本をしっかりと理解する。また、利用者の心理的な側面も体験的に理解する。 介護実習での実践の基礎となるため、積極的に取り組み、現場で通用する確実な技術と態度を身に付ける。				
学 期	項 目	学習のねらい			
1 学期	第1章 障害児・者の生活支援の基本 第2章 運動機能障害のある人の生活支援技術 第3章 内部障害のある人の生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児・者への生活支援の基本条件について学ぶ。 ・障害児・者への生活支援のために必要とされる情報と観察・評価・理解の視点を習得する。 ・障害児・者への生活支援における介護福祉士の業務と他職種との連携の意味を理解する。 ・運動機能障害のある人に対する生活支援の基本的な観点を理解する。 ・運動機能障害のある人のアセスメントと生活支援の目標設定を的確に行うことができる。 ・運動機能障害のある人の生活支援のための具体的な技術を習得する。 ・内部障害の定義、分類、症状について正しく理解する。 ・内部障害のある人とのコミュニケーションの方法・注意点とアセスメントの視点を理解する。 ・内部障害のある人への具体的な生活支援の方法について事例を通して学ぶ。 			

	第4章 視覚障害のある人の生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害のある人の特性と困難を正しく理解し、介護上の留意点を理解する。 ・視覚障害のある人のアセスメントの視点を学び、生活支援技術を具体的に習得する。
2学期	第5章 聴覚障害のある人の生活支援技術 第6章 言葉に障害を認める人の生活支援技術 第7章 発達障害のある人の生活支援技術 第8章 精神障害のある人の生活支援技術 第9章 高次脳機能障害を認める人の生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害の中心的問題について理解し、聴覚障害のある人のアセスメントの視点と留意点を理解する。 ・聴覚障害のある人の生活支援技術の基本的な観点を理解する。 ・聴覚障害にその他の障害が重複している人の生活支援を考える。 ・言葉の障害の3つの型の内容と原因を理解する。 ・言葉の障害のある人がどの型に属するのかの班別に必要な知識と技術を学ぶ。 ・言葉の障害の原因によって異なる生活支援技術の具体的な内容を知る。 ・発達障害の種類とそれぞれの特徴を理解する。 ・発達障害に知的障害が伴う人、または伴わない人の症状の特徴とアセスメントの視点を理解する。 ・発達障害のある人の特性を理解し、生活支援の基本的な考え方について学ぶ。 ・精神障害のある人の特性を理解し、生活支援の基本的考え方について学ぶ。 ・精神障害のある人のアセスメントの視点を理解する。 ・精神障害のある人の生活を支援する具体的な技術を習得する。 ・高次脳機能障害による障害特性と生活への影響について理解する。 ・高次脳機能障害を認める人の生活支援技術を具体的に理解する。
3学期	第10章 認知症の人の生活支援技術 第11章 全介助を要する人および難病の人の生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の症状と認知症が生活に与える影響について理解する。 ・認知症の人に関わるときの態度の原則とコミュニケーションのあり方について理解する。 ・認知症の人のアセスメントの視点と方法について理解する。 ・認知症の人の生活支援技術の具体的なあり方を学ぶ。 ・全介助を要する人および難病の人のそれぞれの身体的心理的状态を理解する。 ・全介助を要する人および難病の人との関わり方とコミュニケーションの方法について理解する。 ・全介助を要する人および難病の人の生活支援技術の詳細を習得する。